



500年の伝統を誇る、優雅な舞の数々

接岨峡温泉会館で梅津神楽が奉納されました

1月20日、接岨峡温泉会館において、約500年の歴史を持ち、県の無形民俗文化財に指定されている梅津神楽が地元の梅津神楽保存会の会員や小中高生生によって奉納されました。

夕方から始まった神楽では、五穀豊穡と家内安全を願う三宝の舞や、天王の舞、鬼の舞、殿の舞など16の舞が舞われました。会場に詰めかけた町内外からの観客たちは、時に優雅に、時に滑稽に舞われる舞の数々を堪能し、大きな拍手を送っていました。



休憩を挟みながら、夜遅くまで行われました
写真は「三宝の舞」

大井川のために何ができるのか？

大井川の再生を考える集いが開催されました 主催：大井川を再生する会

2月4日、山村開発センター大会議室において「大井川の再生を考える集い」が開催され、約100人の来場者が集まりました。

第1部では「川とのつきあい方を考える（新潟大学工学部大熊孝教授）」と題した基調講演が行われ、大熊教授は「考え方が変われば行いも変わる。昔の『川は発電に使えばいい』という考え方から脱却し、河川環境を考える時代へと転換している。技術を駆使したハイテクの川ではなく、素人（一般）の人が慣れ親しめる川であって欲しい」と講演されました。

第2部では大井川の現況報告が行われ「表流水の減少が続き、生態系・環境の変化が発生していること、土砂の流出が止まり、河床の上昇・海岸線の後退が見られること」などが山田部さん（梅高）によって説明されました。

その後、「私たちは何ができるか？何をすべきか？」と題したフォーラムが行われました。フォーラムは、流域の環境に造詣が深い4人のパネリストによるワークショップ形式で行われ、「行動を起こすためにはまず大井川の現状を知ってもらうことが重要」、「水返せ運動のような一地方の取り組みは広く伝播し、周辺にも良い影響を及ぼす」、「問題提起し続ける姿勢が大事」などの意見が飛び交いました。

また参加者からは「大井川流域だけでなく、水の恩恵を受けている地域全体60万人が関わっている。守ることだけでなく利用する視点からも考える必要がある」など活発な意見が出され、様々な観点から河川環境を考える集いとなりました。



熱心な意見が飛び交ったフォーラムの様子

フォーラムのパネリスト：
助言者：大熊孝氏（新潟大学工学部教授）、パネリスト：石橋年孝氏（中部地方整備局長島ダム管理所長）、秋山雄司氏（天竜漁業協同組合長）、山本明男氏（カメハメ八王国執事）、小澤節子氏（大井川を再生する会）、コーディネーター：北島享氏（大井川を再生する会）、

お子さまからお年寄りまで、地域の皆様に信頼される医療を目指しています

島田眼科クリニック

診療内容 白内障・緑内障・糖尿病網膜症・アレルギー・コンタクトレンズ他

◆土曜・日曜・祝日も診療しております。

<http://www.myclinic.ne.jp/shimagann/>

住所：島田市日之出町3-9

TEL：0547 (37) 0431

島田駅から徒歩1分・駐車場完備

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
午前9時～12時	○	○	○	○	○	○	※
午後2時～6時	○	○	○	○	○	○	※

※日曜日は午前11:00～12:00
午後1:00～4:30